

おろしまち保健室だより

Vol.50 2026年(令和8年)7月

共同設置保健師の赤間です。おろしまち保健室だよりは本号でなんと50回！記念すべき節目を迎えることができました。2018年5月からスタートし、代々の共同設置保健師からバトンタッチを受けまして、私が3代目として執筆を担当したのは2022年5月の25号でした。この時期はコロナ禍の不安な時期でしたし、これまでの時の流れに思いを馳せます。これからも皆さんの健康に役立つ情報や健保組合の取り組みについてお知らせしていきます。

この夏、妊婦さん向けのサービスがスタートします

妊娠がわかってから、こんな風に一人で抱え込んでいる方はいませんか？

- ・「ちょっとした体調の変化の悩みを相談したいけど、定期健診で病院には行くまでだいぶ先だしなぁ…」
- ・「スマホや雑誌を開けば妊娠・出産の情報はいくらでも出てくるけれど、情報が多すぎてどれを信じればいいのかわからない。結局、自分の今の不安の解決には繋がらなくてモヤモヤする」
- ・「仕事との両立の悩みは、忙しそうな先生や助産師さんにどこまで相談していいか迷ってしまう」

こども家庭庁が令和6年度に実施した「妊婦や乳幼児とその保護者を取り巻く生活実態調査」によると、妊婦さんが抱える悩みと不安として、心身の負担が大きい(40%以上)、妊娠・出産に関する情報不足の不安(約15%)、必要な支援につながれるかの不安(約20%)、相談できる人がいない不安(約15%)があげられました。

妊婦さんの悩みは、単発の相談では解決しがたく、日々変化する体調や心、生活状況に寄り添う、継続的な支援が不足しています。

近年はハイリスク妊娠が増加しています

日本国内における近年の傾向として切迫早産や妊娠合併症(妊娠糖尿病や妊娠高血圧症候群、妊娠期うつなど)が増えています。その背景には高齢出産の増加や働き続ける妊婦の増加があります。

仙台卸商健保組合としても妊娠や出産に関連した医療費高額になりやすいことが以前より課題としてあり、何か有効な対応策はないか悩んでいました。



スマホの中に、あなたに寄り添う助産師さんがいるような安心を

そこで、仙台卸商健康保険組合では「助産師による妊婦のオンライン伴走型健康管理サービス」を新たに導入することといたしました。

- ・対象は妊婦である被保険者、被扶養者です。
- ・日常の活動量を適切にして、妊娠合併症の予防、心身の健康維持を促します。
- ・株式会社MamaWell(ママウェル) に委託しています。
- ・お申し込みから産後3ヵ月まで(平均6ヵ月間)、以下のサポートを無料でご利用いただけます(健保全額補助)。



この事業は8月よりスタートします。近日中に詳しいお申し込み方法や利用開始時期について、健保組合ホームページ等でお知らせいたします。気になる方は、どうぞお気軽に健保組合までお問い合わせください。



保健師のひとりごと

MamaWellという会社はなんと助産師さんが起業したそうです。お産のプロが提供するサービスをご活用くださいね。体と心の相談先として、気軽におろしまち保健室もご利用くださいね。



今後のおろしまち保健室

令和8年7月16日(木)

9月17日(木)

13:30～16:30

卸町会館2階第2会議室